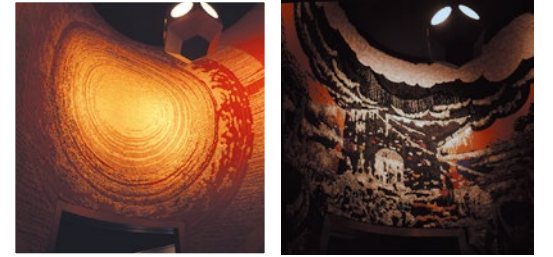




初代「黄金の顔」は直径10.6メートルで、重さは鉄製フレームを含めて約12トン。写真提供:大阪府

初代「黄金の顔」などを展示する施設建設へ 大阪・関西万博を盛り上げる



大阪万博の「日本館」で展示されていた「よこぎの塔・かなしみの塔」の巨大タペストリー(高さ9.2m、幅19.2m)やその他の展示物も公開予定。入館料、その他の展示物は検討中。写真提供:大阪府

大阪府は、万博記念公園内にある大阪万博のテーマ館のシンボル「太陽の塔」に取り付けられていた初代「黄金の顔」の常設展示を行う施設を建設することを発表した。初代「黄金の顔」は1970年の大阪万博開催以来、1992年の大改修時まで太陽の塔の顔を務め、それ以降は分解されて公園内の収蔵庫に保管されていた。現在、太陽の塔に取り付けられているのは2代目となる。今回の展示施設の建設は、2020年に迎える大阪万博50周年の記念事業の一環として計画されたもの。2025年開催予定

の大阪・関西万博の機運醸成にもつながると期待されている。オープンは来年夏頃を予定。大阪万博の展示施設であった「鉄鋼館」を利用した記念館「EXPO'70パビリオン」に隣接する形で建設が進められる。

大阪・関西万博を祝して “思い出の品展”を開催

2025年の大阪・関西万博、開催決定を記念して、「私の大阪万博 思い出の品展」



3月8日に実施された内覧会。左から、MCを担当したミサイルマン西代洋さん、ゲストの河内家菊水丸さん、銅原和子さん、(元ミノルタ迷子センター勤務)、玉置泰紀さん(株)KADOKAWA2021年室担当部長 エグゼクティブプロデューサー。

一の青木俊直さんなど、1970年大阪万博ゆかりの15人から協力を得て、約400品もの思い出の品を展示している。

8日に実施された内覧会にも出席した河内家菊水丸さんも、70年の大阪万博で食べた弁当の包み紙や、同年に企画・製作され話題となった松下電器(現・パナソニック)のタイムカプセルのミニチュアなどを出展した。



大阪万博にまつわる、河内家菊水丸さんの思い出の品々。

が万博記念公園にて3月9日から開催されている。シンガーソングライターの嘉門タツオさんや漫画家・キャラクターデザイナー



2月19日には、吹田警察署長、吹田市長出席のもと出発式も行われた。



分別用コンテナに貼付するシール

吹田市 資源物の持ち去りが禁止に

吹田市は4月1日より、ごみ集積場所から資源物を無断で持ち去る行為を条例で禁止することとした。市は以前から看板の設置やパトロールによって持ち去りの抑制を図ってきたが、空き缶をつぶす音やごみの散乱などに対する市民からの苦情がここ数年で増加したことから、条例での禁止にふみきった。指導や勧告を受けながら該当行為を繰り返した場合には、氏名などの公表や、20万円以下の罰金が科される

こともある。市は今年に入り、周知パトロールやチラシ、看板、分別用コンテナに貼付するシールの配布、ごみ収集車でのアナウンスなどを通して周知を図ってきた。今後も吹田警察署と連携しながら早朝の防止パトロールを行い、実効性を高めていく。市は、深夜早朝の持ち去りを防ぐため、収集日当日の午前8時までにごみを出してもらうこと、また、行為者とのトラブルを防ぐため、該当行為を見かけた場合も直接注意しないよう市民に呼びかけている。

保育所入所の選考に230時間 AI導入で数秒に短縮

池田市は、保育所入所の選考業務にAI(人工知能)システムを利用すると発表した。約500万円の予算を計上、来年度入所分から稼働する。これまで同市では、保育所の入所選考業務に約230時間を要していたが、AIを使用すると、数秒で結果を導き出せるという。市の担当者は、「空いた時間は、保護者の希望をより細やかに聞き取るなどといった、人にしかできな

いことに費やしたい」と話す。保育所入所の選考は、保護者の勤務状況などを点数化し、点数の高いものから決定するだけという単純なものではなく、各戸の異なる家庭環境や希望する状況を考慮する必要があるため、時間を要していた。そのため、選考結果の発送も申し込みから約2カ月かかっており、選考にもれた場合に保護者は、新年度まで約1カ月半の短い期間で、別の方法を考えな



ければならない。今後はAIを導入することで、結果発送までの期間を従来より1ヶ月程度短縮できると見込んでいる。市の担当者は、「業務の効率化だけでなく、より公平な選考が実現できる」とAIの導入に期待する。

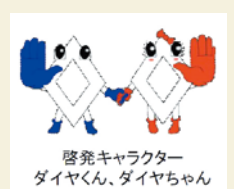
しっかりとした意思表示を「横断歩道ハンドサイン運動」の実施

協力:大阪府警察



主に信号機が設置されていない横断歩道で、歩行者の安全確保を目的とする運動「横断歩道ハンドサイン運動」。大阪府下の横断歩道では、車両が一時停車しない車が多く見受けられ、安心して横断歩道を渡ることができない現状となっている。そのことから、道路交通法第38条「横断歩道における歩行者の優先」の規定を徹底するとともに、ドライバーに横断歩道や自転車横断帯があることを事前に知らせる「ダイヤモンド」の周知を進めている。「ハンドサイン」は、横断歩道を渡ろうとする歩行者と、これに気付いたドライバーが、目と目を合わせて安全を確

認する「アイコンタクト」に加え、互いに手でも合図(ハンドサイン)し、意思疎通を図ること。歩行者は横断しようとする意思を明確に示すため、手のひら等をドライバーに見せるなど「渡ります」と手で合図(ハンドサイン)を行い、それを確認したドライバーは横断歩道手前で停止し、歩行者に対し「お先にどうぞ」と手で道路の横断を促す(ハンドサイン)といった一連の行動を行うよう推奨している。横断歩道を渡る際は意思表示をしっかり行ったあと、左右の安全を確認して渡るよう心がけよう。



啓発キャラクター
ダイヤくん、ダイヤちゃん

▲大阪府警察交通部YouTube公式チャンネルでは、啓発キャラクター「ダイヤくん、ダイヤちゃん」の動画を公開

